2015 年 1 月 22 日

各 位

スパークス・グループ株式会社
代表取締役社長　阿部　修平
(東証 JASDAQ スタンダード:8739)

発行体格付に関するお知らせ

方向性を「ポジティブ」へ変更

当社は、本日、格付会社の株式会社格付投資情報センターより、発行体格付について「BBB－」（格付の方向性：安定的）から「BBB－」（格付の方向性：ポジティブ）へと格付の方向性を変更された旨の通知を受けましたので、お知らせいたします。

なお格付の定義などにつきましては、株式会社格付投資情報センターのホームページ等をご参照下さい。

（参考）

「株式会社格付投資情報センター」による格付の方向性変更の理由（抜粋）

2012年度まで厳しい運用環境が続き、運用資産残高（AUM）は大きく減った。日本株式市場の回復後も資金の流入が本格化せず、AUMの増加は緩やかだった。ただ、足元では、投資パフォーマンスの改善もあって、資金の動きに変化が出てきた。AUMの4割超を占める韓国もウォンベースで増加に転じている。全体としてAUMの増加基調は定着しつつあり、継続的な残高の積み上がりを期待できる状況になってきた。

基礎収益（手数料控除後の残高報酬から経常的経費を差し引いた額）も赤字になるまで収益力が低下したが、人件費やオフィス関連費用など経費を削減し、収支構造の改善を図った。環境変化で、ビジネス基盤拡充の局面に入っており、経費は年換算32億円レベルまで増加しているが、組織の極端な拡大はなく、良好な収支構造を維持している。AUMが2014年12月末で8000億円超まで戻り、収益力は回復基調にある。

保守的な財務運営方針を堅持している。通常、シードマネーと経費以外は資金を必要としないビジネスモデルで、有利子負債は少なく実質無借金で資本負債構成も良好だ。買収で発生したのれんの処理も進み、かつて懸念していた投資有価証券やのれんの減損によって急激に資本負債構成が悪化する可能性は低下している。

以上のような状況を判断し、格付は維持したものの、方向性をポジティブに変えた。資金流入の本格化によるAUMの増加基調が定着するとともに、AUMの積み上げで運用の安定性が目に見えて高まったり、残高報酬率が60ベーシスを上回って推移したりするようになるなど、収益基盤の一層の強化が確認できれば、格上げを検討する。

株式会社格付投資情報センター　ホームページアドレス：
http://www.r-i.co.jp/jpn/

■ 本件に関するお問い合わせ先

スパークス・グループ株式会社　経営管理部
TEL : 03-6711-9100 / FAX : 03-6711-9101